

施工機械周囲を見える化

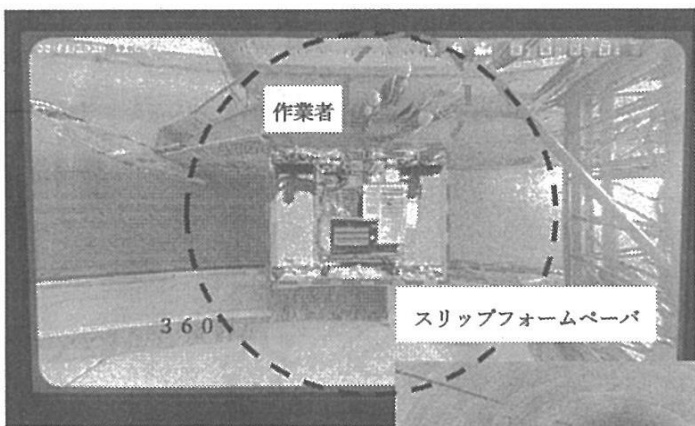
コンクリート舗装の安全対策強化

大成ロテック

大成ロテックは、スリップフォーム工法コンクリート舗装機械（スリッフォームペーパー）に360度可視化モニタシステム「ガルデ360」（東京通信機製）を導入。機械周囲の見える化を実現

し、コンクリート舗装での安全対策の強化を図った。このほど、中日本高速道路東京支社発注の新東名高速道路伊勢原北IC～秦野IC間舗装工事と同システムを導入し、その効果を確認した。

スリップフォームペーパーは、比較的大型の施工機械でオペレータは機械の上で操作盤を操作するが、機械周囲に死角が多く周囲の作業員の位置や作業状況を確認するために、その都度機械上を移動して目視確認する必要があった。そこで同社は、施工機械に複数のカメラを設置し、得られた画像をリア



モニタイメージ



180°カメラ4ヶ所設置



ルタイムに加工することにより、操作盤上で施工機械の360度全周囲を1つのモニターで見える化することを可能とした。これにより、機械周囲の安全確認や作業員の作業状況を一目で把握することができると、安全管理、施工管理の確実性の向上が期待される。

このようなシステムは、自動車や汎用建設機械では普及が進んでいるが、コンクリート舗装用の施工機械であるスリップフォームペーパーに適用した事例はなく、トンネル内など作業範囲が狭小で制約を受ける場所での

施工の際に、施工機械と作業員の接触防止に大いに役立つものと期待している。同社では、このシステムを中・大型の施工機械へ順次導入を進め、施工現場での安全確保に努めていく。